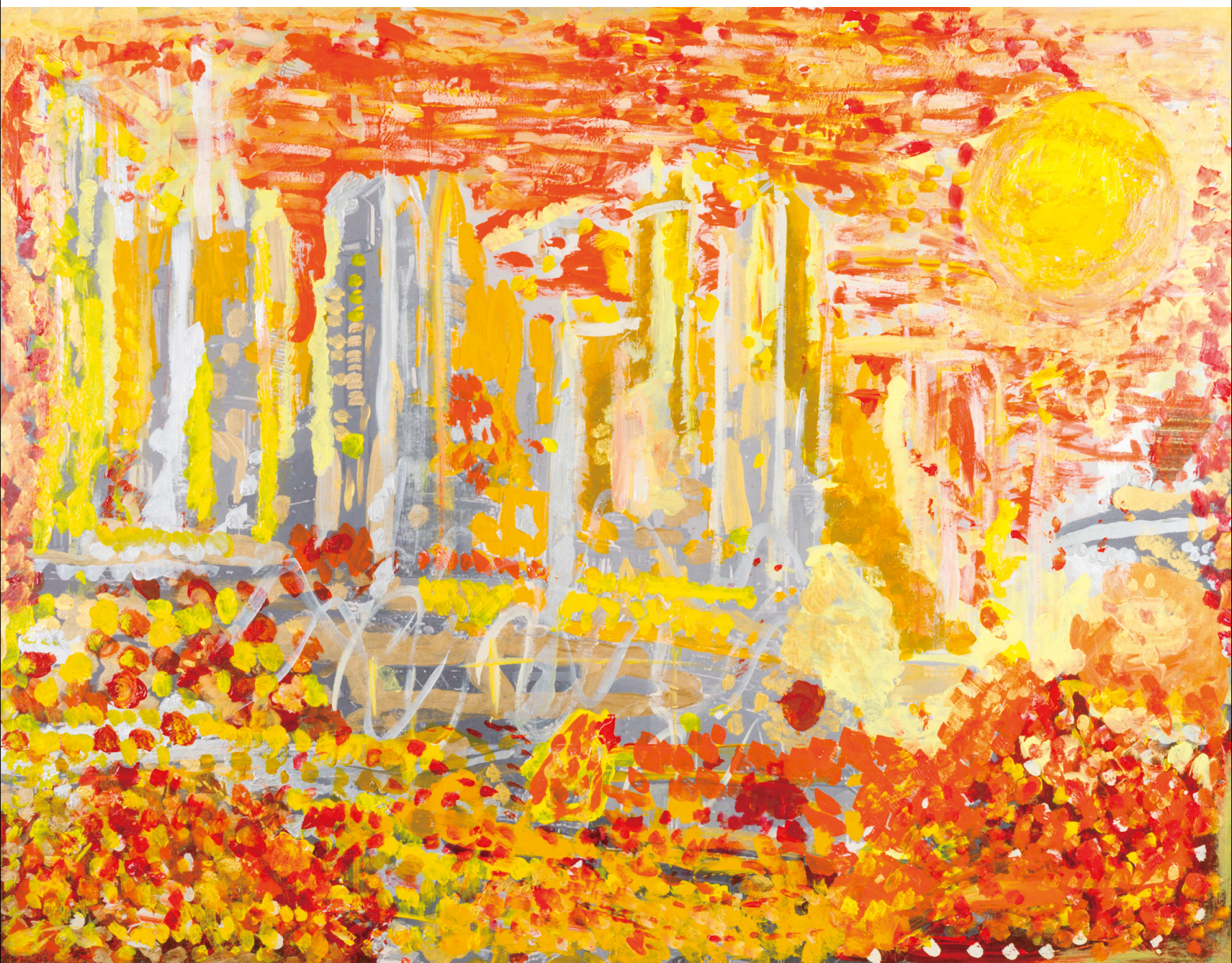


PROWISE | ITとマネジメントの融合を考えるオピニオン情報誌

Vol. 81

Quarterly Magazine
Autumn 2026
Presented by
Hitachi Solutions, Ltd.

プロワイズ



特集

見通す

今を見据え
未来を創る

特集

見通す

今号の表紙

SNSで募った未来アイデアを基にAIが下絵を生成し、ワークショップで参加者が彩った2050年の未来図『紅葉に彩られた秋の未来都市』。屋上や垂直農園で収穫がにぎわい、自動運転やAIが暮らしを支え、緑豊かな建物と世代を超えた交流が広がる都市が描かれている。

Contents

4	Prowise Special Discussion 「非財務」をいかに 「財務」に結びつけていくか 中久保菜穂+秋山岳志
8	Prowise Interview 沖山翔 AIにより格差を埋めて 「ひらかれた医療」を実現する
12	Prowise Interview 塚原あゆ子 「どんな」仕事かよりも「誰と」するか。 良い仕事を成すにはチームビルディングが大切
16	21世紀のものづくり 宝船熊手／吉田京子 目いっぱい「福」を乗せ 人々の幸せを願う
20	持続可能な未来へつなぐ、先進的な取り組み 「ミヤク市！」が描く サーキュラーエコノミーの未来
24	AI時代の脳の使い方・育て方 失敗を許容する土壌から イノベーションは生まれる
26	日立ソリューションズのAIの取り組み 品質保証業務にAIエージェントを導入 最大70%の工数削減、業務品質向上に寄与
28	グローバルトレンドレポート 欧州最大のテックイベント 「Viva Technology」にみるSovereign AI最前線
30	プロワイズスタイル・ゴルフ パー3の攻略法
34	Prowise Info（日立ソリューションズ情報） Prowise Info+（グループ会社情報）
38	from Prowise

Prowise（プロワイズ）とは「Pro（Professional）」と
「Wise（英知/叡智）」を組み合わせた造語です

企画・発行 株式会社日立ソリューションズ
経営戦略統括本部サステナビリティ推進本部
〒140-0002 東京都品川区東品川4-12-7 日立ソリューションズタワー
<https://www.hitachi-solutions.co.jp/>

編集長 藤井千絵
発行日 2026年9月29日

表紙：『紅葉に彩られた秋の未来都市』
編集協力：日経BPコンサルティング
アートディレクション：犬飼健二／デザイン：犬飼デザインサイト
執筆：二階堂尚、牛島美笛、林愛子、津田浩司、小川朗
撮影：竹井俊晴、本浪隆弘、岡沢裕行
塚原あゆ子さん スタイリスト：緒方なごさ／ヘアメイク：宮川朋子
印刷：日立ドキュメントソリューションズ

今を 見据え 未来を 創る

私が遙か遠くまで見通すことができたのだとしたら、それは私が巨人の肩に乗っていたからだ――。12世紀の哲学者ベルナルド・ド・シャルトルのこの言葉を有名にしたのはアイザック・ニュートンだった。「巨人」とは、先人が築いてきた英知を意味する。過去から現在に至る英知の蓄積を資産とできる者は、未来を見通し、未来を創ることができる。「見通す力」をもって新しい価値を生み出すことが、今私たちに求められている。



対談 「非財務」をいかに「財務」に結びつけていくか

中久保 菜穂

Prowise
Special
Discussion

Naho
Nakakubo
+
Takeshi
Akiyama

秋山 岳志

なかくぼ・なほ

企業のサステナビリティ活動の高度化をテクノロジーで支援する「シェルパ・アンド・カンパニー」の取締役・最高サステナビリティ責任者（CSO）。京都大学卒業。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで法学修士を取得。2024年11月より現職。





あきやま たけし

1989年日立製作所入社。以来、一貫して財務領域に従事してきた。2024年より日立ソリューションズのCFOとして財務・調達部門を管掌し、財務戦略立案、コンプライアンス推進、投資案件評価、意思決定支援などを担当する他、アサートイブコミュニケーションの推進活動にも取り組んでいる。

企業活動における「非財務」の重要性が年々高まっている。

サステナビリティや、

人的資本に代表される非財務領域に

企業が取り組む意義について、

サステナビリティ経営の

専門家である中久保菜穂氏と

日立ソリューションズCFOの

秋山岳志が語り合った。

財務と非財務のつながりを どう説明するか

秋山 私は財務関係の仕事を30年ほど続けてきました。ESGやサステナビリティなど、いわゆる非財務領域の取り組みの重要性が、ここ5年くらいの間に格段に増していると感じています。

中久保 これからの時代の投資には、環境（E）、社会（S）、企業統治（G）^{*1}の観点が必要だ。そうした投資に関する

あり方が国際的に広がり始めたのは20年ほど前のことでした。それから徐々に企業活動におけるESGやサステナビリティの重要性が世の中に浸透してきました。そして、ここ5年ほどで、それらの取り組みが企業にとって必須であるという考え方が定着したと思います。

秋山 環境や社会へのアプローチだけでなく、人的資本なども非財務領域の重要な要素です。企業の非財務的活動が財務面に大きな影響を与えると考えられるようになってきているわけですが、その結びつ

きを分かりやすく説明するのは簡単ではないと感じています。

中久保 重要なのは、財務と非財務の結びつきを「ストーリー」として示すことだと思います。結びつき方は、業種や企業ごとに異なります。自社にとってどのような非財務的要素が重要であり、それが企業の成長にどう関連するのか。それを経営陣がストーリーとしてしっかりと語れることが大切です。

2027年3月期から、東証プライム市場で時価総額3兆円以上の企業を皮切

非財務領域の取り組みを 社外にアピールする際は ストーリーづくりが 欠かせません

中久保

りに、有価証券報告書でサステナビリティ関連情報の開示が義務化されます。それにより、様々な開示事例が示され、多くの企業がモデルケースとして参照できるようにになるのではないのでしょうか。

秋山 社外へのステークホルダーに向けたストーリーづくりはとても大切ですね。

もう1つ、私が重要な取り組みと考えているのが、非財務情報を正しく測定することです。財務情報は数値化できる定量情報なので、推移や傾向を可視化することができます。一方、非財務情報の中には、定量的に表せるものと、定性的にしか表現できないものがあります。

す。定量化できる要素はしっかり定量化して、KPIを明確にしていくことが今後求められるようになると思います。KPIツリーをつくって、非財務の取り組みが財務面にどのようなつながっているかを視覚的に明らかにできれば理想的です。

中久保 例えば、CO₂などの温室効果ガス（GHG）排出量、顧客満足度、商品やサービスのリピート率、社員のエンゲージメントなどは、非財務領域でも定量化できる項目です。KPIを定めて進捗をトレースすることは、とても大切な取り組みです。



Naho Nakakubo

非財務領域の重要性を 社員に伝えていくために

秋山 一人ひとりの社員に非財務領域の取り組みの重要性を伝えていくことも大切であると私は考えています。非財務領域の中にはビジネスのパフォーマンスとして明確に表現できない要素も多いので、社員の納得感を醸成する工夫や努力が求められます。私は常々、「三現主義」を大切にしてきました。現場、現物、現実を見てあらゆる判断をしていくということとです。非財務の重要性を社員に説明する場合も、働く現場やそれぞれの社員の思いを汲み取った上で、押しつけにならないようなコミュニケーションをしていく必要があると思っています。日立ソリューションズが全社的に進めているアサーティブコミュニケーション、つまり、相手の立場や考え方を尊重しながらメッセージを伝えるコミュニケーション手法も大いに役立つと考えています。

中久保 非財務領域の重要性を社員の皆さんにどう伝えていけばいいのか。その課題に悩まれている企業は少なくありません。

意識変革のためのコミュニケーションに注力したり、社員向けのワークショップを実施したりするケースも着実に増えています。

私は社内の意識変革には、大きく2つのポイントがあると考えています。1つは、秋山さんがおっしゃるように現場の視点を大切にしながら、各現場の仕事がサステナビリティをはじめとする非財務領域にどう関連しているかを一つひとつ地道に示していくことです。それを踏まえて、非財務領域における業務ごとのKPIを設定することができれば、社内の意識変革や行動変容は大きく進むと思います。

もう1つは、非財務領域の重要性をパーパスに紐づけて訴求することです。企業のパーパスには多くの場合、非財務的価値が含まれています。そのパーパスとそれぞれの社員の皆さんの仕事や人生のパーパスのつながりが明確になれば、パーパスで言及されている非財務的価値を自分ごと化できるようになるはずです。

秋山 なるほど、パーパスという上位のレイヤーから非財務領域の大切さを説明するということですね。

中久保 そうです。それによって、非財務領域の取り組みが仕事のやりがいや自分の輝きにつながるという納得感が得られるのではないのでしょうか。

秋山 私は、「組織文化」も非財務領域の重要な要素の1つであると思います。私が日立製作所から日立ソリューション



一人ひとりの社員の 思いを汲み取りながら 非財務の重要性を 伝えていきたい

秋山

ズに移ったのは5年前でした。この会社に来て思ったのは、素晴らしい組織文化があるということでした。新しいことに着手する時のスピードが非常に速く、社員のチャレンジを応援するマインドがある。マネジメントクラスと現場の社員の双方の対話が日常的に行われている。何かを進める時には、責任体制や期限をしっかりと決めて、PDC Aサイクルを回して改善を図る――。そんな組織文化です。日立ソリューションズの非財務領域の強みは何かと尋ねられたら、私はこの組織文化を真っ先に挙げたいと思っています。

中久保 素晴らしいですね。組織文化も財務と非財務をつなぐストーリーの要素になることは間違いないと思います。もっとも、それを評価指標として可視化するのは、社員エンゲージメントや離職率などの数値として把握できるようにすることが必要です。それによって、測定や進捗の把握も可能になります。

秋山 おっしゃる通りですね。日立グループには社員エンゲージメントの測定ツールがあります。そのようなツールを非財務領域の可視化や定量化にどんどん活用していきたいと思っています。

中長期的視点の大切さを 広く伝えていきたい

秋山 財務領域と非財務領域を接続することのゴールは、企業価値を高めることです。では企業価値とは何か。その定義も会社によって異なりますよね。

中久保 企業価値を捉える際、時価総額やPBR^{*2}などの指標が用いられる場合が多いですが、社会への影響までを含めて企業価値とする例もあります。大切なのは、ステークホルダーが「これがこの会社の価値だ」と納得できることです。

秋山 「財務」と「非財務」と「企業価値」。その3つの要素をしっかりと結びつけていくことが大切ですね。最後に、中久保さんがこれから挑戦していきたいことを教えてください。

中久保 「財務と非財務の接続」の重要性を、より多くの企業や投資家に広めていくこと。その活動の継続が私の挑戦です。経済環境の不確実性が高まるほど、短期的な結果を求める傾向が強まりがちです。しかし、企業の持続的成長や価値向上には、中長期的な視点が欠かせません。



Takeshi Akiyama

ん。非財務領域の取り組みの成果はすぐには表れませんが、短期的な財務指標への依存にはリスクがあります。企業が成長を続けるには、非財務領域の取り組みを将来の企業価値を生む「無形資産」の形成につながるものと捉え、財務成果へ接続していく視点が不可欠です。その考え方をもっと広めていきたいですね。

もう1つ、AIをはじめとするテクノロジーを活用したサステナビリティ経営支援にも注力していきます。当社は、企業のESG情報の収集・分析・開示活動の高度化をテクノロジーで支援する「Smart ESG」というソリューションを提供しています。私自身も「AI×サステナビリティ」の領域で専門性をさらに高めていきたいと考えています。

秋山 「財務と非財務の接続」の重要性を広めていきたい――。その思いに大いに共感します。繰り返しになりますが、私のCFOとしての役割の1つは、その考え方を社内につかり根づかせることです。非財務領域における一人ひとりの日常の取り組みが財務的インパクトにつながる。その認識を多くの社員が持つことができれば、会社は間違いなく成長していくはずです。限られた時間の中で、CFOとしてやるべきことを全うしたい。そして、一人ひとりの社員の挑戦や成長が企業価値の向上につながるという好循環を、次の世代へしっかりと引き継いでいきたい。それが私の思いです。

AIにより 格差を埋めて 「ひらかれた医療」 を実現する

Promise Interview 01

沖山 翔

アイリス株式会社 代表取締役社長、医師

医療現場に
立ち続けることが
理想とする医療を
実現する推進力

沖山氏は――

① なぜ、医師でありながら
起業したのか？

② なぜ、AI搭載医療機器を
開発したのか？

③ なぜ、今もへき地医療を
続けているのか？



おきやま・しょう

アイリス株式会社 代表取締役社長、医師。2010年東京大学医学部卒業。日本赤十字社医療センター救命救急科を経て、ドクターヘリ添乗医、離島医、船医として救急医療、総合診療に従事。救急科専門医。17年アイリス株式会社創業。国立研究開発法人産業技術総合研究所 AI技術コンソーシアム医用画像ワーキンググループ発起人、日本救急医学会救急AI研究活性化特別委員なども務める。

離島医療に飛び込み 気づいた医療の課題

—東京の病院で救急医として働いていた沖山さんが、A-搭載医療機器を開発するベンチャーを立ち上げることになったきっかけを教えてください。

救急医として東京の大病院で働いていた頃は、すべてが整っている充実した環境でした。しかし、医療資源が十分ではない、都市部以外の場所でも医師としてやっていけるのかという不安があり、それまでとは正反対ともいえる石垣島の病院で働くを決めたのです。最初はコネクショ

Interview with Sho Okiyama

ンも何ありませんから、直接病院に電話して、人事課の人に自ら「医師、募集したりしていませんか」と問い合わせをしました。

その後多くの離島などで働きましたが、東京と離島の医療はあまりにも違いました。南鳥島では看護師もいなくて、医師は私1人でした。島

では検診を勧めるのも自分だし、診察の中で病気を見つけるのも自分、治療するのも自分です。医療機器も揃っていない中で、私ができるレベルの医療、専門領域しか提供できません。それは医者としてあまりにも責任が重く、医療格差の現実を突きつけられました。

―格差解消のためにA-I搭載医療機器の開発を決めたのですか。

そこに至る前に、厚生労働省の医系技官、国境なき医師団、戦略コンサルなど、いろんな説明会に参加してみて、キャリアを模索した時期もありました。しかし、自分が考えるものとは違うように感じ、起業しようと思った。今のようにならないうと決めました。A-Iを使いこなす時代ではなかったですが、医学生の中から人間の意識や脳の研究には興味があったので、脳科学から発展したA-Iのことは身近に感じていたんです。A-Iは標準化にとっても優れているので、A-Iによって医療の格差を埋めようと考えました。

―A-Iで埋めたい医療の格差とはどのようなものですか。

医療にも匠の技のようなものがあります。例えば、熟練した専門医は心音などから病気を見つけられますが、その技術はそう簡単には身につきません。一方で、都会では熟練医がいなくてもCTやMRIなどで数値化・可視化して診断につなげられます。しかし、それが使えないへき地では聴診や触診、問診の情報から診断して治療につなげなければいけません。私も診断機器が充実していないへき地では、長い時間をかけて必死に患者さんの心音を聞き、じつ



先端のカメラで撮影した咽頭画像と体温、自覚症状などから、AIがインフルエンザ／新型コロナウイルス感染症を判定する「nodoca」

くりと口腔内を観察しました。

これが地域、技術力、専門性の格差であり、不自信を抱いた患者さんに「医者ガチャ」と映ってしまう一因です。こうした格差を補填するのには、A-Iはとても向いています。

100人の医師に声をかけて1万人分の画像データを収集

―起業を思い立つてから医療機器開発・承認取得までのプロセスを教えてください。

A-Iを使った医療機器をつくると最初から決めていました。ただし、アイリスを起業した2017年当時、A-Iを搭載した医療機器は存在していませんでした。そもそも日本においては医療機器開発のハードルがとても高く、医療機器として承認されるのは年間数件程度しかありません。それくらい医療機器承認を得るのは大変なのです。

それでも医療現場で普及させるこ

とを考え、厚生労働省出身で法律に詳しい現副社長と一緒に会社を立ち上げました。そこから、咽頭部を観察するカメラをつくり、そのカメラを使ってたくさん人の咽頭部画像を撮影してデータをつくり、そのデータを使ってA-Iに解析させるというステップを踏んでいきました。そうしてできたのが「nodoca（ノドカ）」という診断支援機器です。

―A-I診断となると膨大な量の学習データが必要になりますね。

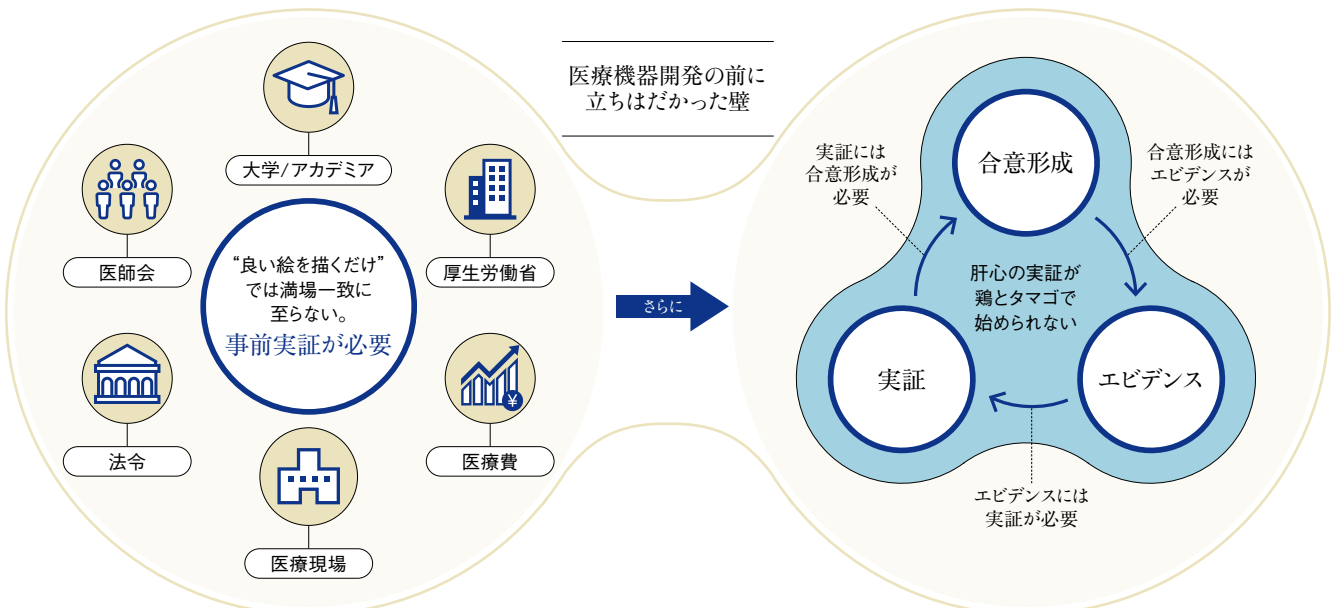
その通りです。試算では1万人の患者さんの協力が必要とのことでした。そこで、100の病院やクリニックに機器を貸し出して、100人の患者さんを撮影してもらいました。100人の院長のうち、知人だったのは1人か2人だけで、それ以外は全員面識のない人でした。それでも、医師として今も臨床現場に立ち続けている点や製品の強みを認めてもらい、計1万人分のデータが集まってA-I開発が実現したわけです。

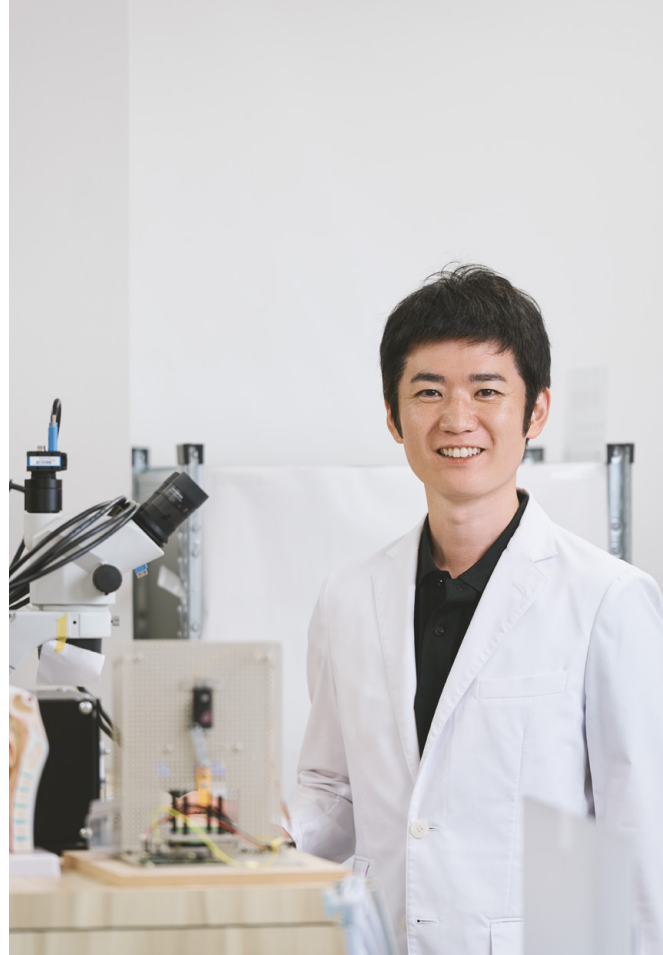
―「nodoca」の特徴を教えてください。

感染した細菌やウイルスによって咽頭部には特徴的な症状があらわれますので、小型カメラで撮影した喉の画像と体温や症状からA-Iが感染

｜多くのステークホルダーとの合意形成の難しさ｜

｜事前実証を行う難しさ｜





症を判定する機器です。2022年

4月に医療機器として薬事承認され、同年12月にはnodocaを用いたインフルエンザ検査が保険適用となりました。2025年には新型コロナウイルス感染症の検査もインフルエンザと併せて行えるようになります。

インフルエンザや新型コロナウイルスの検査を受けたことがある人はご存じでしょうが、細長い棒を鼻の奥まで入れる検査はつらく、子どもたちは泣いてしまうこともあります。nodocaは口を開けて数秒間撮影します。検査後すぐに結果が出るというメリットもあります。今では全国2000以上の医療施設に導入されています。

―薬事申請は大変だったのでは。

すごく大変でした。承認審査を行うPMDA（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）に私たちのプランを相談した時は「いいですね」と応援してくれるものの、前例のないAI診断支援機器ですから、そもそも評価のしかたが分からないと。なので海外の情報を集めるなどして丁寧に話し合いを重ねて、相手と私た



ちの情報のギャップを埋め、合意形成に至りました。

今も月4日は医療現場へ

医師として

ビジネスを展開

―nodoca開発により見えてきた課題はなんですか。

最初は医療者たちのAIに対する信頼度の低さが課題でした。しかし、AIは完全なものではなく、医師たちの判断を助けるもので、精度を説明すると理解してくれました。今や生成AIが身近な存在なので、AIに抵抗感をもつ人もほとんどいません。

―医療系ベンチャーを経営する上で

大切なことはなんだと思いますか。開発のコアメンバーに医師がいてほしいと思います。患者としてしか見たことがないAIの専門家と、医療の現場にどっぷり浸かって多くの患者さんと接してきた医師とでは、やはり違うと思うのです。

私は現在、金曜日から月曜日まで北海道の病院で診療にあたり、月曜日に羽田に戻ってきて東京でアイリスの仕事をするという生活を送っています。当社の中にも医師免許をもつ社員が何人かいて、彼らも週に何日か医療現場に立っています。また、救急医として多くの患者さんの命を

救ってきた一方で、救えなかった命もたくさんあります。そういった医師としての気持ち、医療に関する多様な価値観、医療現場へのリスペクトを大切にしていることが、私がビジネスを進めるための推進力になっています。

―理想の医療として、どのような将来像を思い描いていますか。

どこにいても同じ質の医療が受けられるようになることに加えて、医療を受けた人が納得感や安心感を得られる、そんな医療ではないでしょうか。

すべての医療現場がAIにより最適化された情報にアクセスできるようにし、医者による当たり外れのような概念がなくなり、医療への信頼感もたらされる世界をめざしたいと思っています。



未来へのアクション

医師として現場に立ち続けAIで医療の格差解消をめざす沖山翔氏の記事は、WEBでも読めます。ビジネスに役立つコンテンツが満載のWEBサイト「未来へのアクション」はこちらから(2026年11月掲載予定)



「どんな」仕事かよりも
「誰と」するか。
良い仕事を成すには
チームビルディングが大切

塚原氏は――

① チームづくりの際に
何を意識しているのか？

② なぜ「役」を固定化しないように
心がけているのか？

③ 物語から何を得られると
感じているのか？

Promise Interview 02

塚原あゆ子

株式会社TBSスパークル
ドラマ／映画プロデューサー・ディレクター

誰も想像できない世界は
映画やドラマにならない
誰かがい描いた世界が
未来になっていく

つかはら・あゆこ

千葉大学文学部卒業後、木下プロダクション(現TBSスパークル)に入社。テレビドラマの助監督を務め、2005年にテレビドラマ「夢で逢いましょう」で演出家デビュー。演出を担当したドラマに「アンナチャール」「グランメゾン東京」「MIU404」「最愛」「下剋上球児」「海に眠るダイヤモンド」「ザ・ロイヤルファミリー」など。2018年に『コーヒーが冷めないうちに』で映画監督デビューを果たす。2024年、映画『ラストマイル』を監督。

「日常生活にある「種」を
ヒントに、それぞれの時代に
生きている人たちを描く

―塚原さんの作品は人間関係や社会
背景が精緻に描かれている印象が
あります。その描写において、意
識している点がありますか。

作品ごとにテーマが違うので一概
には言えませんが、作品づくりでは、
登場人物が「その時代に生きてい
た」と感じられること、それぞれの
関係性がきちんと伝わることを大切
にしています。例えば「海に眠るダ
イヤモンド」では戦争の悲劇にも触
れています。しかしドラマで描きた
かったのは、石炭から石油へのエネ
ルギー転換が起きている時代の波に
のまれながらも、力強く生きていた
人々の姿でした。あの時代、あの場
所に彼らがいたから生まれた物語だ
と思っています。

―映画でもドラマでも、制作から世
に出るまではタイムラグがありま
すよね。先々に起こりそうな出来
事を見越して企画を立てているの
でしょうか。

公開・放映の時期は意識しますが、
未来のことは誰にもわかりません
から、先を読んで企画を立てること
はしません。ただ、誰も想像できない
世界は、映画やドラマでも描けませ



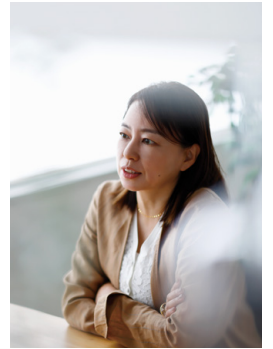
Interview with Ayuko Tsukahara



ん。ですが、誰かが想像して描いた世界が、後に現実になることはあります。私たちが映画『ラストマイル』を企画したのはコロナ禍の最中で、当時は物流の「2024年問題」という言葉もありませんでした。が、私たちがステイホームを余儀なくされる一方で、宅配事業者はどんな忙しくなって「物流現場は大変そうだ」と感じました。そこに想像力が働いて作品が生まれ、結果として現実の出来事につながりました。日常の中で生まれた物語の「種」がすべて未来につながるわけではありませんが、想像が現実になることは確かにあると思います。

— 現実社会の事象から想像を膨らませた結果が未来につながったと考えると、大変に興味深いです。ビジネスパーソンが事業計画を考える上でのヒントにもなりそうです。

私の経験から学べることは多くないかもしれませんが、「時代を先取りしよう」と狙った瞬間に作品の軸がブレると思っています。そもそも私は、世の中に何かを訴えようと思って物語を作っているわけではありません。ただ、ルッキズムを例に挙げれば、役割を固定化する表現はしたくない。かつては母親が縁側に正座しているような構図が多く、それが視覚的に刷り込まれてきた可能性



がありますよね。でも今は、母親役だからといって必ずしもエプロンを着る必要はありませんし、立ち位置がキッチン側である必然性もないはずです。そうした固定化されたものを意識的に外していきたい。それが、ドラマや映画を観る人が、より自由な人生を選んでいける後押しになっていると嬉しいなと思っています。

「誰と仕事をするか」を重視
生き生きとした現場が
作品のクオリティを高める

— 作品づくりには多くの専門スタッフ
フが欠かせません。チームビル
ディングについての考えをお聞かせ
ください。

私にとっては、「どんな仕事をするか」以上に「誰と仕事をするか」の方に価値があります。ですから「どんな映画を撮りたいですか」と言われるよりも「〇〇さんが一緒に仕事をしたいと言っている」と声をかけられる方が心が動くんです。そこから「この作品に合うカメラマン

は誰か」「△△さんが一緒に仕事をしたいと言っていたから声をかけよう」といった具合に、メンバーを集めていきます。「こうすれば生き生きとした現場になるだろう」と想像しながら人を集めることで、作品へのモチベーションを高めていく——それが、私の作品づくりのやり方です。

— チームを率いる監督として、意識
していることを教えてください。

すべてのスタッフが最大限のパフォーマンスを発揮できるようにしたいと思っています。そのために私にできることは些末で、たとえば日々の挨拶をきちんとすること。作品によつてはスタッフが200人近くいることもあり、全員が現場に毎日来るわけではありませんから、全員の名前を覚えることは正直難しい。それでも、スタッフは監督である私のことを知っているの、自分が全員の名前を覚えられないことを自覚している分、誠意のある接し方とは何かを日々考えています。

— 心理的安全性のあるチームを作る
ために意識していることはありま
すか。

大切なのは、やはり挨拶だと思っています。「おはよう」から始まり「さようなら」で終わる。それを全員に對して心がけるだけでも、だいぶ違

うのではないでしょうか。今の私がいる環境では、意識的に距離を縮めようとするよりも、背中を見せるス Tanksの方が有効だと感じています。「話しかけよう」「教えよう」という気持ちも、行き過ぎれば自己満足になりかねません。だからこそ、きちんと挨拶をし、現場が円滑に進むように全力を尽くすことに徹します。

ただ、それによつて心理的安全性が保たれているかと問われれば、私は



「話しかけづらいタイプ」と言われますし、忙しいと丁寧な対応が難しくなるので、まだまだ課題も多いですね。

映画やドラマが新しい世界を
知る入り口になり得る

文化であることに変わりはない

— 現在、新作を撮っていらっしゃる
そうですね。

2026年10月スタートのTBS



金曜ドラマを企画・撮影しています。内容はサスペンスもの。ドラマ「最愛」や湊かなえさんの三部作（「夜行観覧車」「Nのために」「リバーズ」）を撮った、いつもの座組でスタートし、そこに新しいキャストや新しい仲間が加わって、楽しく撮影しています。脚本は映画『国宝』の奥寺佐渡子さん、主演は横浜流星さん。お二人がタッグを組んだ作品を観た上で、自分の作品を撮るのは楽しい体験です。

— サスペンス系だと、SNSでの考察も盛り上がりそうです。
作品を楽しんでいたただけなら嬉しいですね。飲み屋さんや電車の中で「あれ見た？」といった会話が耳に入ってくることもあって、それが楽しいです。SNSは検索し過ぎると影響を受けてしまいそうなので、自分から積極的に見ることはしませんが、スタッフが「こんな感想がありました」とまとめてくれるものには目を通します。

— 昨今はカメラなど撮影環境や技術も進んでいると聞きました。
この10年でカメラが大きく変化し、これからも加速度的に変化していくと思っています。以前は「何でも撮れる」機材が評価され、暗くてもどんな状況でも撮れる汎用性が価値でした。しかし今は、暗くないと撮れないレンズや赤い色の再現に特化したカメラなど、汎用的ではない部分にこそ価値が生まれ、細分化が進んでいます。

カメラの「進化」というよりも「変化」という方がしっくりきます。この変化は作品全体に波及し、今後は10話の連続ドラマだけでなく15分×4本で1話という形態もありかもしれないし、画角もビスタとシネスコ*だけではなくなる可能性があります。例えば東京タワーなら、縦型の映像の方が映えるといったように2030年の映画はワンカットごとに画角が変わることも十分に考えられます。

— AIによる影響をどう見ておられますか。
AIによって架空の世界線を作るコストと時間がかからなくなれば、自由度が増し、マーケット自体が変わっていく可能性があります。従来、業界内では視聴率や観客動員数を競うために、誰もが好きな世界観が良しとされていたけれど、AIでニッチな世界観が簡単にたくさん作れるなら、そういった在り方も間違いではないでしょう。一方で、スタッフの仕事が奪われることへの不安や恐怖感もあります。AIで役者の髪型を時代劇風にできれば、結髪もかつらも不要になるかもしれませんし、役者の身体を簡単に痩せさせたり太らせたりできれば、役者の価値すら揺らぐ恐れがあります。おそらく10年後には、AIで映像を安価に大量生産することも、人間が演じること

に価値があるという考え方も、どちらも正解になっているでしょう。その時自分の立ち位置をどこに置くのか、悩みながら生きていくことになるそうです。今よりもAIが普及してもなお、スタッフが生き残る形のエンタメは必ず存在するはずで、そこにどう経済活動としての成立を見出すかを追いかけていかなければならないと思っています。

— 最後に読者へのメッセージをお願いします。
映画やドラマは、新しい世界を知る入り口になり得る文化です。ドラマ「ザ・ロイヤルファミリー」を撮る際に競馬を勉強して、とても奥深い世界だと知りました。そうした出会いがあるのがドラマや映画の魅力です。携帯でもテレビでもパソコンでも、どんな媒体でも構いませんので映像作品にぜひ触れてみてください。物語を通じて未知の世界を知りたい。体験となり、その発見を楽しんでいただけたら嬉しいかぎりです。

未来へのアクション

個々のパフォーマンスが最大限発揮されるチーム作りを心けている塚原氏の記事は、WEBでも読めます。ビジネスに役立つコンテンツが満載のWEBサイト「未来へのアクション」はこちらから(2026年11月掲載予定)



金曜ドラマ「LOST10」
TBS系10月16日金曜10時スタート

物語の舞台は北海道の壮大で過酷な大自然。登山ツアー中に起こった遭難事故の真相を追うことから、すべては始まるヒューマンサスペンス・エンタテインメント。食い違う関係者の証言、裏切り、巨大権力、試される絆……幾重もの「ロスト」から導き出される真実から、彼らは何を掴み取るのか——？

目いっぱい「福」を乗せ
人々の幸せを願う

「年」

を十二支で表すのは誰もが知る日本の風習だが、「月」や「日」にも十二支による表現があることにはあまりなじみがないかもしれない。「月」にはそれぞれの干支があり、日付の干支も12日ごとに一巡する。

11月に巡ってくる「酉の日」は昔からその年の作物の収穫を祝う大切な日だった。もともと農具市だったといわれる酉の日の祭が「酉の市」という名で知られるようになったのは江戸時代のことだ。現在でも「一の酉」「二の酉」、さらに月内に酉の日が3回ある場合は「三の酉」の市が主に関東で開かれている。

元来は落ち葉や枯れ草を集める農具であった熊手が、縁起物として西の市で売られるようになったのも、やはり江戸時代からである。「福をかき集める」という願いが熊手に込められ、1年に1度西の市に足を運んで新しい熊手を買いたい、商売繁盛や家内安全を祈願する風習が浸透した。

宝船熊手

Takarabune Kumade

monozukuri

21世紀の
ものづくり⑫

宝船熊手よし田
吉田京子 よしだ・きょうこ
宝船熊手「よし田」4代目店主。古くから伝わる伝統技法による宝船熊手づくりを受け継ぐ。七福神の筋骨きや面相描きを担い、天然素材にこだわった宝船熊手を1年かけて制作。毎年、浅草・鷺神社の酉の市で販売している。



「浅草西の市」が毎年開催される台東区の鷲神社は、足立区のおおとりじんじゃ大鷲神社と並んで、西の市の長い歴史をもつ神社である。現在でも毎年、熊手を売る屋台がおおよそ150店出て、80万人近い人出で大賑わいとなる。

その浅草西の市で「宝船熊手」を毎年販売しているのが、神社からほど近い場所にある「よし田」である。宝船熊手は、七福神をはじめ、鯉、鯛、鶴、小判、翁といった縁起物を目いっぱい飾った豪華な熊手だ。以前は多くの職人が手がけていた宝船熊手を、浅草で現在もつくり続けているのはよし田だけである。

1500の熊手に込められた思い

宝船熊手のつくり手が減っていったのは、大変な手間と時間と技量を要するからだ。七福神の顔や衣装をはじめ、すべての飾り物は一つひとつ手描きで描かれる。

飾り物の絵の下描きに当たる「筋書き」を主に手がけるのは、よし田の4代目・吉田京子氏の仕事だ。1代目は祖父、2代目は父の没後に3代目となったのは母の啓子氏だった。

「絵の勉強をしたことはなく、



毎年11月に開かれる西の市で縁起物として売られる熊手。様々な飾り物で彩られる熊手の中で特にこだわりの飾りで知られるのが「宝船熊手」だ。浅草で宝船熊手を手がける唯一の店「よし田」が熊手づくりに込める思いとは。

七福神や鯉、鯛など多彩な縁起物が目いっぱい飾られる宝船熊手。一部の印刷物を除いて飾りはすべて手描きだ

すべて現場で覚えました。母が筋骨きをする様子を小さい頃から見ていましたから、特に大変だと感じたことはありませんでしたね」

そう京子氏は話す。七福神の神々にはおのおの個性がある。その個性を表現するポイントは「目」なのだと言京子氏は言う。細い筆を使って、大黒天や弁財天などの目は優しく、悪を退ける守護神である毘沙門天の目はいくぶんきつめに描く。その多彩な表情があいまって、宝船全体で満ち溢れるような「福」が表現される。

筋骨きの上に、やはり筆と水絵具を使って微細な彩色を施していくのは、職人たちの仕事だ。よし田の宝船熊手には、二寸、三寸、五寸、六寸、八寸といったサイズがあり（一寸は約3cm）、さらにごく少数つくられる尺寸以上の巨大な熊手もある。飾りの大きさは熊手のサイズごとに異なるので、彩色の作業も一様ではない。

一方、飾りを貼りつける串、熊



手の本体、熊手を支える土台などをつくるのは、別の職人たちである。そのチームを率いるのが、京子氏の長男、忠彦氏だ。

忠彦氏が、会社員を辞めて熊手づくりに取り組むようになったのは24歳の時だった。20年ほど前のことだ。母の京子氏と同じように、子どもの頃から熊手づくりはごく身近にあつて、年に一度の酉の市にたくさんの人たちが集まって大いに盛り上がる様も見てきた。この文化をなくしてはならないと思ったと忠彦氏は話す。

宝船熊手づくりは、正月の門松の片付けから始まる。浅草界隈の家庭や商店で使用した門松を集め、竹を割って串をつくる。放つおけば廃棄されてしまう資材を有効活用し、正月の縁起物を新たな縁起物に生まれ変わらせる。資源と縁起のリサイクル。そう言ってもいいかもしれない。

十分に乾燥させた竹串に、抜き型を使ってそれぞれの形状に抜いた厚紙を糊で貼りつけるのが次の作業だ。それに筋骨きと彩色を施すことで飾り物となる。

並行して、竹でつくった熊手の本体に、新潟から取り寄せたしめ縄をくくりつけ、宝船熊手のペー



求める人がいる限り
熊手づくりの
文化は続いていく

1／飾り物になる厚紙を切り出す際に使う抜き型と木槌。
1代目が使っていたものが今も残っているという
2、3／細い筆を使って一つひとつの飾りに筋骨きを描いていく。
この作業ができるのは京子氏を含め2人しかいない

を、おおむね9月までに終わらせるといふ。

10月に入ると、しめ縄に飾り物を刺していく作業が始まる。小さな熊手には小さな飾り物を、大きな熊手には大きな飾り物を一つひとつ刺し込んでいく。この作業を行うのは、京子氏と忠彦氏の2人の役割だ。畳部屋に腰を下ろし、休みなく黙々と作業を続ける。京子氏は言う。

「11月までにすべての熊手を完成させなければならぬので、最後のひと月はこの作業にかかりきりになります。大変な作業で、指にいくつもマメができますが、途中から気持ちが高揚してくるのが自分でもよく分かります」

一つひとつの熊手に福が入るよう心を込め、買い求める人たちの幸せを願いながら、丁寧に仕上げていく。そうして出来上がる熊手は、大小合わせて1500ほどになるといふ。「これを西の市で売る時は、手塩にかけて育てた娘を



嫁に出すような気持ちですね」と京子氏は笑う。

よし田の宝船熊手には、プラスチックや発泡スチロールなど化学系素材は一切使われていない。「自然のもの、土に返せるものだけでつくる」という昔ながらの流儀を大切にしているからだ。

もっとも、材料の中には徐々に手に入りにくくなっているものもあり、価格が上がっているものもある。代替できる素材を探しながら、これまでと変わらないクオリティーの熊手をつくる工夫をするのは、忠彦氏の仕事だ。

熊手を求める人たちの笑顔を見るために

よし田の宝船熊手は、鷲神社の西の市でしか買うことができない。年に1度の機会を求めて、多くの得意客が市に足を運び、京子氏や



4／一つひとつの飾り物に丁寧に彩色を施していく。3人の職人たちがこの作業を担当している

5／縁起物の鯛。この立体造形は外部の職人に依頼してつくっている

6／鯛に彩色をするのは職人たちの仕事だ。水性絵の具やニスで塗ったのち、「金書き」をして仕上げる

7／主に新潟から取り寄せているしめ縄。稲の茎を乾燥させた稲藁を素材としている

8／竹でつくった熊手にしめ縄を一つひとつ結わえ付けていく。これが宝船熊手の土台となる



一般向けには、二寸から八寸までの5つのサイズがつくられている。毎年西の市でしか買うことができない

忠彦氏と1年ぶりの再会を喜び合う。そして新しい熊手を手にして、満面の笑顔を湛えて帰っていく。その笑顔が見られるからこそ、1年間の大変な仕事に打ち込めるのだと忠彦氏は話す。

伝統工芸には跡取りの問題がつきまとうが、よし田にはすでに頼もしい5代目候補の忠彦氏がいて、その妻も日々彩色の仕事に励んでいる。しかし、京子氏はまだまだ引退するつもりはないという。

「母は90歳くらいですと彩色の仕事をしていました。私も体が動かなくなるまで、現場で働き続けたいと思っています」

熊手づくりは、戦争や災害を乗り越えて長く継承されてきた。熊手の文化の先行きを京子氏はどう見ているのだろうか。

「残るものは自然に残るし、ダメなもの自然に廃れていくと考えています。幸い私たちの熊手には多くのお得意様がいらつしやいます。求めてくださる方々がいらつしやる限り、熊手づくりも続いていく。そう思っています」

2026年の西の市は、11月7日と19日に開催される。今年もまた、宝船熊手といっしょにたくさん人の福が手渡され、たくさん笑顔が境内に溢れるに違いない。

持続可能な
未来へつなぐ、
先進的な取り組み



解体工事中のクラゲ館



©KURAGE Project & steAm, Inc.



リユースのため解体される資材

大阪・関西万博では、閉幕後に施設や資材や設備を
リユースへとつなぐ「ミyak市！」を実施。パビリオンの1つ
「クラゲ館」は広島県福山市に移築され、
子どもたちの体験・学びの場として生まれ変わります。

「ミyak市！」が描く
サーキュラーエコノミーの未来



大和ハウス工業 ビジネス・ソリューション本部 | 永野一朗 氏

福山市 未来館設置準備室長 | 手島智幸 氏

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会 審議役 | 大林正樹 氏

背景の大きな木のあたりに、クラゲ館を移築予定

「ミyak市!」の
構想の背景や経緯を
教えてください。

大林 2025年開催の大阪・関西万博では、数多くの施設や設備が建設されました。閉幕後は会場跡地を更地にして返却する取り決めとなっており、施設や設備の速やかな撤去が求められる中、膨大な量の産業廃棄物の発生が懸念されていました。そこで私たちは、閉幕後の施設・設備、什器・備品などを公募形式で出品し、次の担い手へと引き継ぐ仕組み「万博サーキュラーマーケットミyak市!」(以下、ミyak市!)の構想に至りました。これは、従来のリニアエコノミーから、廃棄物を極力出さずに資源を循環させるサーキュラーエコノミーへの転換をめざすものであり、万博の掲げる「未来社会の実験場」というコンセプトを体現しています。廃棄物削減の有効なアプローチとして「リユース」に着目し、再利用しやすい施設や設備、再利用を求めている市場等の情報を収集。その需要と供給をマッチングする仕組みの開発を進めました。

永野 大和ハウスグループは、100周年となる2055年に向けたロードマップでサーキュラーエコノミーを設定しており、持続的な資源循環の方法を模索してきました。万博においても

“ ミyak市!は「建設業における資源循環への挑戦」 ”

大林正樹 氏

サーキュラーエコノミー実現のため、リユース可能な循環型建築として『いのちの遊び場クラゲ館』（以下、クラゲ館）を施設提供させていただきました。さらに、この概念を大阪・関西万博の全体に広げ、「大阪・関西万博をサーキュラーエコノミー実現に向けた行動変容のきっかけにする」という構想を描きました。そして、大林さんと共に協力いただけそうな企業様一社と社にお声がけし、週1回の定例会や勉強会を通じて仲間を増やしていったのです。

仕組みづくりから クラゲ館の移築まで どう進んだのでしょうか。

大林 最大の課題は国内に施設や設備を扱えるプラットフォームが存在していないことでした。そこで、海外の先進事例を参考に大和ハウス工業と共にゼロから仕組みを構築していただきました。「ミyak市！」の業務内容は、需要予測に始まり、解体・運搬・保管時の材



料破損リスクの分析、広報活動まで多岐にわたります。それを支えたのが、IT、建設、リース、産業廃棄物処理、物流、印



旧福山市体育館跡地及び五本松公園内 施設配置等イメージ図
(提供：福山市)※今後変更の可能性があります

刷など、各業界の協賛企業によるコンソーシアムの組成でした。多様なパートナーとの連携こそが、事業推進の何よりの原動力となりました。リユース材を別の建物の構造材料として再利用するには法的なハードルもありましたが、国へ働きかけて許可を取得するなど、一つひとつの壁を粘り強く乗り越えていきました。

手島 そうした取り組みがクラゲ館の移築という話につながりました。その前提には、福山市が進めている「(仮称)子ども未来館」事業があります。この事業を進めていく中で、パビリオンリユースのを知り、民間事業者や外部有識者の意見などを踏まえて検討した結果、クラゲ館のリユース公募



に参加しました。
2029年度
オープン予定の
子ども未来館は、
子どもたちが科
学や技術に触れ
て、楽しく学び
成長できる施設

となります。移築されるクラゲ館の屋根は、子どもたちが自然の中で実験やワークショップを行う子ども未来館の屋外フィールドとして活用する計画です。しかも、福山市のシンボルである福山城には約400年前に京都の伏見城から移築された「伏見櫓」および「筋鉄御門」(いずれも重要文化財)が現存しています。福山市民には建造物の移築は歴史的にも親しみがある文化です。クラゲ館の移築も同様に愛着を持つてもらえると思っています。

ミyak市！の意義と 未来に向けた展望を お聞かせください。

手島 子ども未来館を訪れる子どもたちには、体験と学び、多様な人との交流を通じて、社会に関する疑問や課題を発見し、解決する力を育み、持続可能な未来社会の担い手として成長してほしいと願っています。循環型経済を地域社会に根づかせていくためには、私たち行政だけでなく、企業、教育機

“ミyak市！の成果を、循環型経済に向けた行動変容のきっかけに”

永野一朗 氏

関、市民団体、地域住民の皆様などが、それぞれの強みを持ち寄りながら協創していくことが大切であると考えています。技術やノウハウの提供にとどまらず、子どもたちが実際に体験し学べる場づくりなど広い分野で積極的に参加してほしいと思います。

永野 ミヤク市！の取り組みには、「大阪・関西万博レガシーの継承」と「循環型建築の成果を広く社会に発信すること」という2つの意義があります。

特に後者は、事業主、設計者、施工者、メーカー、エンドユーザーなど建設に関わる多様なステークホルダーの意識と行動変容の促進につながることを期待しています。また、製品の持続可能性情報をデジタルで記録するデジタルマテリアルパスポート(DMP)と呼ばれるシステムを試験的に導入するなど、建設業の今後につながる試みも多数盛り込まれています。しかし、サーキュラーエコノミーは一朝一夕には実現し得ません。私たち企業も長期的視野を持って、事業としての社会実装をめざす姿勢が必要であると考えています。

大林 2024

年8月にオープ

ンしたミヤク

市！は徐々に注

目度を高め、結

果として多くの

大阪・関西万博

レガシーをリユ



ース品として市中に還元することができ、廃棄物削減量で約6200トンに及びます。記録の詳細は、協会公式WEBサイトに「大阪・関西万博 サステナビリティレポート」を公表していますので、今後の類似事業の参考としてお役立ていただければ幸いです。

また、今回福山市に移築されるクラゲ館は施設規模も大きく、ミヤク市！における象徴的な取り組みの1つといえます。福山市の子どもたちが大阪・関西万博レガシーに触れることで、この場所を起点に資源循環の輪が脈々と未来へと根づいていくことを心より願っています。

編集部から

日立ソリューションズはパートナーとしてクラゲ館に協賛し大阪・関西万博に関わる中で、ミヤク市！が掲げる価値の循環と継承の考え方に着目し、その理念に共感しました。大阪・関西万博で生まれた価値の継承はこれから本番です。ミヤク市！やクラゲ館の移築は、サステナビリティを理念にとどめず、社会の仕組みとして実装する挑戦といえるでしょう。「つくって壊す」が当たり前だった建築やイベントのあり方も、「受け継ぎ、活かす」という価値観へ変わり始めています。こうした取り組みを支えるのはデジタル技術だけでなく、多様な企業や自治体、地域の人々による協力の力です。当社もその一員として、人と社会、未来をつなぐ価値創造に貢献していきます。

“クラゲ館での出会いが未来で活躍する子どもたちの礎になれば”

手島智幸 氏



エフピコアリーナふくやま(福山市総合体育館)にて撮影

大阪・関西万博
サステナビリティ
レポートはこちら





Column

第3回

AI時代の
脳の方
使いた
育て方

東京大学大学院
情報理工学系研究科
知能機械情報学専攻
生命知能システム研究室
教授

高橋宏知氏
Hirotaka Takahashi



たかはしひろかず

東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。工学博士。福祉工学、感覚代行、聴覚生理学など医学・工学の境界領域の研究に従事。東京大学先端科学技術研究センター講師・准教授などを経て現職。著書に『生命知能と人工知能』など。

文脈依存のイノベーション
人工知能にも創造性は宿る？

AI時代、人は創造的な仕事に集中しようといった議論をよく聞きます。人の創造性はどこから来るのですか。

創造性が生まれる条件として、おそらく最も重要なのは「失敗が許容されるか」と思います。人間の場合、なぜ失敗はそれなりに許容されるのか？それは互いにリスクペクトし、愛情を持って接しあっているからです。そうした環境の中から、ときどき創造的な発想やイノベーションが生まれる。ただし、生まれたものは失敗作や異質なだけの「ゴミ」かもしれません。それが有益なイノベーションか、それともゴミなのかは文脈に依存します。特定の環境にフィットするアイデアが、別の状況ではまったく意味をなさないといったことはよくあります。

失敗を許容する土壌から イノベーションは生まれる

AI時代、改めて人間の「創造性」が問われている。創造性やイノベーションはどこから生まれるのか。AIには創造性を期待できないのだろうか。そして、AIがさらに普及する将来に備えて、人間はどのような能力を身につけるべきだろうか。東京大学大学院の高橋宏知教授に聞いた。

人工知能には、創造性を期待できない
でしょうか。

AIを使う人間が、AIの失敗を許容するかどうか。もし許容するならば、創造性を発揮する可能性は高まるでしょう。ただ、私たちは機械やAIに対して厳しい目を向けがちです。例えば、数%の確率で間違える電卓を、そうと知った上で使う人はいません。ただ、最近では変化の兆しもあります。生成AIがときどき間違えることはよく知ら

イノベーションの定義は曖昧です。イノベーションに基準のようなものがあるでしょうか。

新しい評価軸を提示しているかどうか、だと思います。私の学生時代、液晶モニターは貴重かつ憧れの存在でした。研究室のモニター画面を触って指紋をつけて、先輩たちから怒られたりしたものです。ところが、スマホやタブレットが登場すると、モニター画面は触って操作するものになりました。

指紋など、誰も気にしません。以前のモニターは大きさや解像度、画質などで優劣が語られましたが、その評価軸は大きく変わりました。

新しい評価軸の設定を、AIが担うことはできませんか。

「新しい評価軸を5つ提案せよ」と打ち込めば、AIはそれなりのアイデアを出してくれるでしょう。しかし、その問題は実体験を伴っていないこと。イノベーションにつながる評価軸

イノベーションは
新しい評価軸を提示する

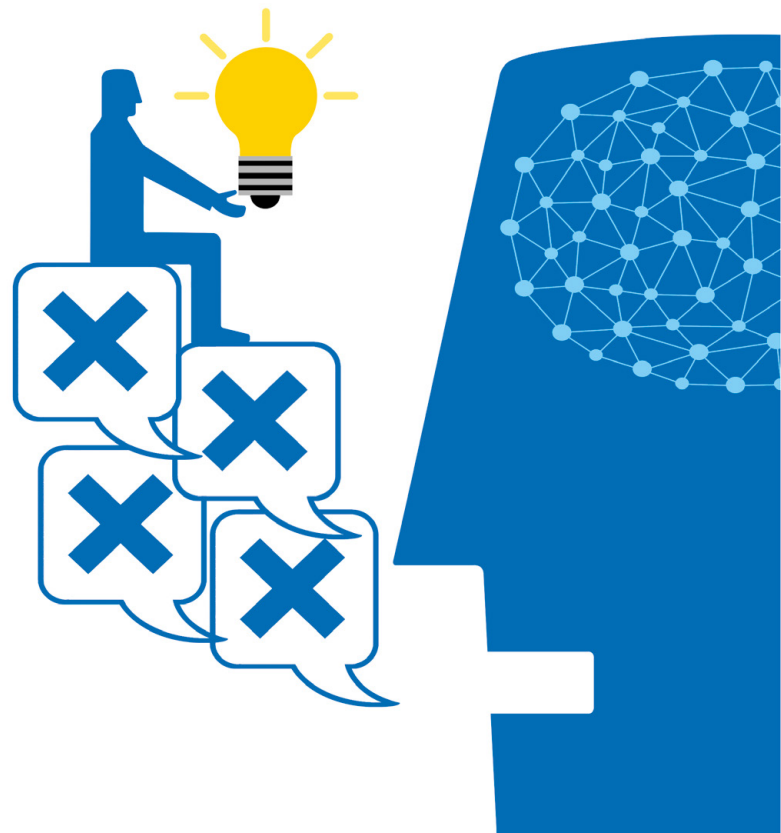
は、その人の人生経験や好き嫌い、言語化できない感情の集積の中から生まれます。現時点での希望的観測ですが、そうしたものをAIに埋め込むことはできないでしょう。

逆に、明確な評価軸があれば、AIは「解」を見出す能力に長けているといえそうです。まず思い浮かぶのが囲碁や将棋です。

勝敗やルールが明確なゲームで、AIが強いことは確かでしょう。ゲームでのAIの強さより私がすごいと思うのは、あれほど大勢の人を夢中にさせるゲームを人間がつくりだしたことです。長い歴史の中で、試行錯誤的にルールを改めることもあったでしょう。

囲碁・将棋に匹敵するほど魅力的なゲームの創造は、AIにはできないはずです。新ゲームのルールをつくる能力はあったとしても、それが人びとを夢中にさせるかという疑問です。AIには人間が当たり前のように体験する感情、つまりは自分自身の評価軸が欠けているからです。

メタラーニングの方法は
リスクリングにおいても有効



多様性がイノベーションを生み出す
と、よく言われます。

生物の進化でイノベーションはあくまでも結果論です。ある環境と文脈の中でたまたま成功した生物が後の世で繁栄する。その背後には、無数の失敗があります。環境不適合の突然変異を遂げれば絶滅し、適合する突然変異は多くの子孫を残す。ビジネスの世界でも同じことがいえるのではないのでしょうか。失敗を許容することが大切というのは、そのような意味です。

イノベーションは「新結合」とも言われます。

研究の世界でも、新しい組み合わせは研究テーマを見つける時の「王道」です。私が所属する工学部の機械情報工学科は、「機械と情報を組み合わせたらすごいことができる」ということで、1990年代に生まれました。ビジネスにおいてもどんなタイミングで、何と何をどのように組み合わせるかが重要なのだと思います。これは決して手当たり次第な試行錯誤ではありません。

AI時代を迎える中で、最近はリスクリングの重要性がより強調されるようになりました。

私が日常的に接している大学院生たちは悩みながら、自分独自のテーマを見つけ研究に取り組んでいます。ただ、その途上で巨大な環境変化に遭遇することがあります。ChatGPTの出現などは、その類の出来事かもしれません。研究テーマの変更を余儀なくされる場合もありますが、深い専門性を身につける中で習得した学び方、つまりメタラーニングの方法は次の研究テーマにも活かすことができます。ビジネスパーソンにとってもメタラーニングは重要です。今取り組んでいる仕事で得た学びは、次の仕事に必ず活かします。その学びのプロセスをメタレベルで考える習慣を身につけた人財は、リスクリングにも十分対応できるのではないでしょうか。

リスクリングのプログラムを提供する企業が、注意すべきポイントはありますか。

本来、人は好奇心を持ち、新しいことを理解したいと思うものです。そんな内発的な動機を刺激するようなプログラムを工夫してもらいたいですね。

日立ソリューションズの AIの取り組み ③

試行錯誤を経て、
業務知識の重要性に
改めて気づいた

品質保証統括本部のミッションに
ついてうかがいます。

高見 当社は様々なお客様のシステム開発を支援しています。品質とコスト、納期はすべて重要な要素ですが、品質保証統括本部は開発するシステムの品質について、最終的な責任を負います。品質にこだわってきましたが、かといって高品質を追求した結果、他の要素に悪影響があつてはなりません。最適バランスに配慮しつつ、最新技術を取り入れて品質を高める努力を重ねています。

品質保証業務でAIを活用しているとのことですが、その背景や狙いを教えてください。

高見 QA（品質保証）はスタッフ部門に位置づけられますが、受託したプロジェクトの予算を使って業務を遂行します。また、QA担当者は個々のプロジェクトのメンバーとして活動します。限られた予算・工数内でいかに業



四ッ橋 章匡

Akimasa Yotsuhashi
日立ソリューションズ
品質保証統括本部
品質・プロジェクト統括センタ
QAPM技術部 主管技師



高見 英樹

Hideki Takami
日立ソリューションズ
品質保証統括本部
品質・プロジェクト統括センタ
QAPM企画部 企画グループ
グループマネージャ



佐藤 卓

Taku Sato
日立ソリューションズ
品質保証統括本部
品質・プロジェクト統括センタ
QAPM技術部
技術グループ
グループマネージャ

品質保証業務に AIエージェントを導入 最大70%の工数削減、 業務品質向上に寄与

組みを振り返るといかがでしょう
か。

四ッ橋 私たちがめざしたのは「見積」や「計画」、「要件」といった工程ごとに、ある程度まとまったタスクを実行するAIエージェントの開発です。2023年から活動を始めましたが、当初は手探りでうまくいかず、翌24年に開発方針を変更しました。AI活用部門担当者から、QA業務に精通するキーパーソンが大きな役割を担う形に変えたのです。業界や機能など領域ごとのシステムについて、QAで豊

富な経験を持つ人々です。

高見 重要なポイントはどこまでAIに任せるか、どのタスクを人が担うかということ。その境界線の引き方が、AIエージェントの質を決定します。境界線を適切に見極められるのは、QA業務のベテランたちでした。

「こんなものは使えない」、
「これでどうだ」を

繰り返して
AIエージェントを磨く

AIエージェントの社内での本格

活用はいつからですか。

四ツ橋 「品質保証向けAIエージェント」として、2025年9月から社内展開しました。見積もりなどの工程ごとにAIエージェントテンプレートを用意し、それぞれが対応するプロセスを自動処理します。現在では、QAに関わる現場担当者の多くが本AIエージェントを日々の業務で使っています。

AIエージェント開発の過程で苦

勞したこと、工夫した点などをお聞きます。

四ツ橋 AIエージェントを使うのはQA部門。メンバーは従来からのやり方に慣れていますが、各自の経験の中で培った属人的な手法もある。新たにAIエージェントを導入するのは容易ではありません。開発したAIエージェントを見せて「使ってください」といっても、現場のユーザーから「こんなものは使えない」と、容赦なくいわれることも少なくありません。その意見を持ち帰り、修正した上で「これでどうだ」と。そんなやり取りを繰り返しながら、徐々にAIエージェントの中身を充実させ使いやすいものにしていきました。業務の標準化を進めるために「このやり方してください」と、トップダウン的なアプローチをとった場面もあります。

現場ユーザーの意識に働きかける、あるいはスキル向上という観

点ではいかがですか。

佐藤 業務にAIエージェントを組み込む上で、避けて通れない課題です。最初は「AIを使ってみよう」という呼びかけから始まり、ユーザーに寄り添いながらスキル向上をサポートしました。AIを使いながら、「自分がAIを育ててやろう」という気持ちになつてもらいたいですね。改善点の指摘があればすぐに対応します。開発して社内を提供するだけでなく、業務の中にAIエージェントを定着させることが私たちの役割です。

外販を視野に入れ、「カスタマーゼロ」としてノウハウを蓄積

AIエージェントテンプレートについて、具体例をいくつか教えてください。

高見 品質保証向けAIエージェントには、役割ごとに5つのタイプがあります。「分析支援系」「分類支援系」「チェック支援系」「リスク支援系」「自律型AIエージェント」です。例えば、分析支援系のテンプレートでは、データから共通項を抽出し、課題への対策案の検討を支援します。リスク支援系のテンプレートでは、見積書やお客様のRFP*1などに潜むリスクを洗い出します。例えば、RFPと当社提案資料のギャップを分析

し、受注の課題になりそうな要素を提示します。また、自律型AIエージェントでは、プロジェクトの進行に合わせて報告情報などをとにリスクを分析・指摘します。*2

品質保証向けAIエージェント活用の効果について教えてください。

佐藤 タスクによって異なりますが、30〜70%の工数が削減されました。また、見積精度が大幅に向上するなど、業務品質面での有用性を確認しています。プロジェクトのスピードアップ、期間短縮といった効果も表れています。

品質保証向けAIエージェントをソリューション化して、外部の企業に提供する予定はありますか。

四ツ橋 現在、構想を練っている段階です。一案としては、QAチームとは別につくられた、システム開発用AIエージェントに組み込む形で提供するというアイデアがあります。具体的な内容は近く公表できると思います。私たちは品質保証向けAIエージェントを、「カスタマーゼロ」の取り組みと位置づけています。お客様への提供を視野に入れ、まず自分たちが試行錯誤してノウハウを蓄積し、ソリューションとして磨きをかけていきます。その成果をお客様への価値提供につなげ、より多くの現場で品質向上と生産性向上に役立てていただきたいと考えています。

AIエージェントテンプレート一覧



*1 Request for Proposal：システム開発や業務委託を行う発注側企業が、受注候補のベンダーに対して具体的な提案や見積もりを依頼する文書

*2 AIエージェントで利用するデータは、学習に利用されない環境で取り扱っており、顧客の同意を得たもののみを使用しています

*3 重要障害になりえる部位を特定し、品質向上施策強化を促す手法

*4 ソフトウェア開発やテスト工程で作成される「不具合帳票（バグ報告書）」

今野 美咲・齋藤 里央

欧州最大のテックイベント「Viva Technology」にみる Sovereign AI 最前線

毎

年フランス・パリで開催される欧州最大級のスタートアップとテクノロジーのカンファレンス「Viva Technology（以下、VivaTech）」第10回を迎えた2026年は6月17日から20日まで開催され、165の国と地域から約20万人^{*1}が参加しました。昨年の18万人^{*2}から大幅に増加しており、このカンファレンスへの関心の高まりがうかがえます。

今年も話題の中心はAIです。イベント全体のテーマ「Artificial Intelligence, Impact, Not Illusion」には、見せかけではなく実質的な「効果・価値」を追求する姿勢が伝わってきます。欧州では、AIに対するアプローチの起点が米国とは異なる傾向があります。米国がビッグテック主導のもと、基盤モデル（LLM）の性能向上や汎用的なプラットフォームの市場支配を優先する「技術・スピード起点」であるのに対し欧州は「ルール・価値観起点」のケースが多いようです。

欧州ではまず、AI規制を定めた「欧州AI法（EU AI Act）」とプライバシー規制である「EU一般データ保護規則（GDPR）」によって安全基準の枠組みを固め、その信頼性が担保された領域内で、自国が誇る独自の伝統技術や高度な専門データを掛け合わせています。外部に情報を流出させないために汎用AIにすべてを委ねず、自前の「Sovereign AI」として



今年で10周年を迎えたVivaTech

産業に深く組み込みもうとしている点が欧州の特徴であり、その戦略は米国とは大きく異なります。

モノづくりの現場でも人とAIが協働

VivaTechには4500社^{*1}以上の企業が出展しています。その中には、ヘアケアやメイクブランドを擁するロレアル社、LVMH社（モエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン）のルイ・ヴィトンやディオールなど、パリ発のラグジュアリーブランドも多数名を連ねていました。こうした伝統ある企業も最先端テクノロジーを積極的に取り入れ、新たな価値を創出しようとしている点が強く印象に残りました。

ロレアル社のブースでは、ユーザーがカメラの前に座るとAIが顔の形などを分析し、似合うメイクやコスメを提案する体験デモが披露されていました。撮影した画像情報から特徴抽出を行い、同社が蓄積してきた独自データと組み合わせる最適な提案を行っていると考えられます。ここでも核となっているのは、自社データを活かしたSovereign AIです。

一方、独自のLLMプラットフォーム「Maia」を活用しているのがLVMH社です。すでに5万人以上の従業員が利用

*1 <https://vivattech.com/> ・ <https://vivattech.com/news/viva-tech-2026-recap>

*2 <https://vivattech.com/news/viva-tech-2025-delivers-biggest-edition-yet>

し、販売支援に加え、接客用アプリで売上向上や売上予測にも成果をあげているといえます。製造ラインでは、革素材の裁断にデジタルツインを活用。無駄なく素材を切り出すAIソリューションを開発し、その提案を踏まえて職人が最終判断を下しています。モノづくりの現場ではAI活用が広がる一方、「AIはサポート役、人間が最終判断」という役割分担が徹底されている点が印象的でした。

スタートアップも1万5000社*以上が参加し、「欧州らしさ」を感じさせる提案が見られました。その1つが、衛星画像で工場などの建設時に環境影響を評価するプラットフォームです。周辺の緑地の量や建造物が環境に与える影響の程度などを計算し、現地の各種規制への適合も判定できます。サステナビリティを重視する欧州らしいコンセプトですが、すでに、豪州やインド、南米などにも展開されています。また、フランスの著名なAI研究機関から派生した音声AIスタートアップは、超低遅延かつ高精度な音声配信を実現する音声言語AIモデルを開発していました。従来は「音声→テキスト→音声」の処理過程でタイムラグが生じていましたが、人間同士の会話のようなコミュニケーションを可能にしています。チキン販売店を想定したデモでは、人間のオーダーを起点にAIが自然な対話を重ねて注文内容の確定を支援していました。対話の途中で別の人間が割り込んで、AIはそれを認識し、柔軟に対応します。現在は英語やフランス語など5言語に対応しており、今後は日本語を含むより多くの言語への対応が予定されています。話している途中で誰かが割り込んできてもリアルタイムで処理でき、感情のトーンも理解できることから、コールセンター業務に加え、カンファレンスの通訳などへの応用も期待されます。

規制を基軸にした欧州のしなやかな戦略に学ぶ

全 体を通して感じたのは、AIは「可能性を探る段階」を終え、自律的な「AIエージェント」が実際のビジネス



今野 美咲
Misaki Konno

Alliance Specialist
Innovation Sourcing
Hitachi Solutions Europe, Ltd

日立ソリューションズ入社後、SAPやマルチクラウドのインフラ周りの設計・構築に従事。2025年10月からHitachi Solutions Europeにて業務研修中。欧州の新規商材発掘・トレンド調査業務を担当。



会場は、世界各国からの参加者で賑わっていた

ワークフローを支援する「展開（デプロイメント）」の時代に入ったということです。

VivaTechでは、AIはIT活用や業務効率化のための単なるツールではなく、伝統産業のコア価値を高める知的財産として位置付けられていました。欧州では、米国発のAIをそのまま使うことで生じ得るリスクであるデータ流出や差別化の喪失を回避し、自社の歴史的アセットや研究データを学習させた独自AIを構築しています。これにより、ブランドの生命線であるクラフトマンシップや顧客体験を損なうことなく、高度なパーソナライゼーションを実現していました。

厳格なルールを負担ではなく「設計の前提」として受け止め、独自の「技術主権（Sovereign）」を確立することで、模倣不可能な競争優位性を築く姿勢は、非常に先進的で示唆に富んでいます。

規制が厳しい欧州は、一見すると米国やその他の地域に比べて不利に見えるかもしれませんが、しかし、ルールが明確だからこそ、名だたる大企業が安心して独自のディープテックを現場に実装できているともいえます。この点は、独自の職人技術や高度な知財を豊富に持つ日本企業にとって、重要な示唆となるはずです。

自社の強みである専門データや文化をAIと融合させ、独自の価値を高める——。欧州の「Sovereign AI」の戦い方は、日本企業が世界市場で戦っていく上で参考となる戦略モデルになり得ると感じました。



齋藤 里央
Rio Saito

Alliance Specialist
Innovation Sourcing
Hitachi Solutions Europe, Ltd

日立ソリューションズ入社後、Microsoft CRMの設計・構築やプレ活動に従事。2025年10月からHitachi Solutions Europeにて業務研修中。欧州の新規商材発掘・トレンド調査業務を担当。

スコアを10打減らすための即効レッスン NGエリアからのリカバリー法

今回はラウンド中に必ず遭遇するパー3の対処法です。

張り巡らされたバンカーなどの難所を事前に把握し、
回避するのがファーストステップ。

それでもゴルフにミスはつきものです。

もし入ってはいけないバンカーにつかまってしまったら？

状況を冷静に判断しながらリカバリーすることで、
スコアの悪化を防ぎましょう！



※雨天での撮影のため写真に雨粒などが写り込んでいる可能性があります



山田さん
ゴルフ歴1年半
(ベストスコア94)



小山さん
ゴルフ歴4年
(ベストスコア93)



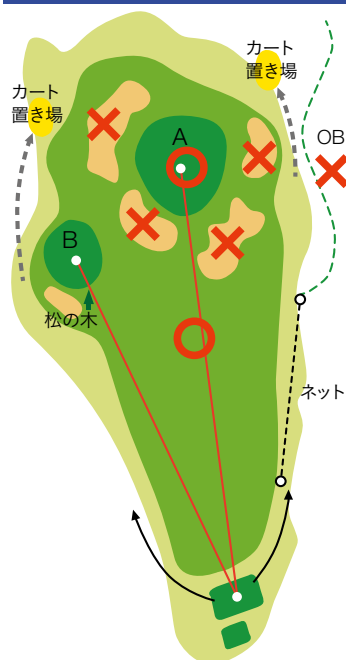
日立ソリューションズ所属プロ

白戸 由香

しろと・ゆか／青森県南津軽郡出身。日立ソフトウェアソフトボール部で活躍後、1993年にプロゴルファーへと転向。2014年のレジェンズツアー「シブヤカップ」で初優勝を飾った。17年には「ふくやカップマダムオープン」と「シブヤカップ」で2勝を挙げ、レジェンズツアーの賞金女王に輝いた。レジェンズツアー6勝。22年から4年連続して全米シニア女子オープンに出場した。

制作協力/清流舎
取材・撮影協力/大みかゴルフクラブ
茨城県日立市大みか町6丁目19-22
TEL/FAX: 0294-52-5052

Adviser / Yuka Shiroto

大みかゴルフクラブ 3番ホール
124ヤード・パー3

STEP 1 NGエリアを検証し攻略ルートを確認

短いパー3です。最も注意すべきエリアは右側のOB。ここに入ると最低でもダブルボギーになるリスクがあります。ティーショットは、スタンス、腰、肩のラインをグリーン方向に合わせ、いつものリズムで振り抜くことが重要です。

STEP 2 風向き、強さを計算に入れて

このホールが難しいのは、海沿いのコース特有の風が吹くだけでなく、松林にも囲まれていること。ティーイングエリアで感じる風と、上空やグリーン上の風向きが異なる場合もあります。風向きや強さを見るためには松林の動きやピンフラッグの向きなどを参考にすることも大事です。

STEP 3 バンカーからは脱出最優先で

グリーン周囲には4つのバンカーが配置されています。細心の注意を払ったつもりでもバンカーに入ってしまう可能性もあります。ミスショットした場合に備え、第2打がバンカーショットになることも想定に入れつつティーショットを打つことも一つの方法。あらかじめ想定しておけば、たとえバンカーに入っても冷静に対応できます。入ってしまったら、まず脱出を最優先に考えましょう。無理をしてミスを繰り返すと、さらに深みにはまることもあるからです。

山田さんのお悩み

バンカーショットでミスが出る

「バンカーからピンが近い時は、どう打てばいいんでしょうか？」

バンカーでは「バンス」を入れる

「打ち込んで終わり」ではない



【白戸プロの解説】

山田さんのバンカーショットを拝見した時に、最も気になったのはエクスプロージョンショット※1の後でスイングが止まってしまっていた点です。

ボールの手前にクラブを打ち込むこ

とばかりを意識するのではなく、インパクト時にボールの下にバンス※2を入れることを意識してください。

その後もしっかりと体をひねり、フィニッシュまでしっかりと振り抜くことを心がけていただきました(写真③)。

【※1】エクスプロージョンショット：グリーン周りのバンカーから脱出する際、ボールを直接打つのではなく、手前の砂ごと爆発(エクスプロージョン)させるように打つ基本的なショット

【※2】バンス：ウェッジのソール(クラブの底)にある出っ張りや、その角度のこと。砂の中にクラブが深く潜りすぎるのを防ぎ、エクスプロージョンショットを容易にする役割を持っている

ワンポイントアドバイス

「体の回転でフォローを出していくことが肝心です」
(白戸プロ)



【山田さんの感想】

打ち込むことにこだわっていましたが、振り抜くことが大事なんです。

スイング軸をキープしてコンパクトに振り抜く

矯正前のトップ・オブ・スイング



矯正後のトップ・オブ・スイング



【スイング分析】

小山さんの長所である体の柔らかさが、ゴルフでは逆にマイナス要因になっていました。通常のトップ・オブ・スイングの位置よりも肩が深く入るため、スイング軸が飛球線方向へと傾くまでに回り過ぎてしまっていたのです。

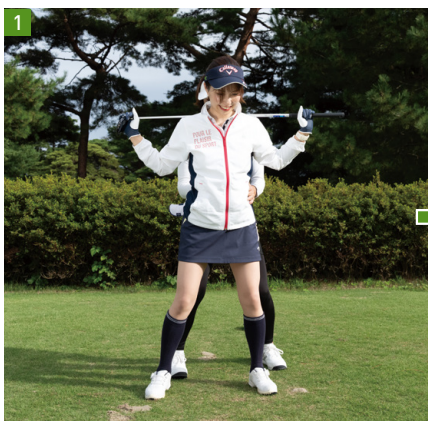
オーバースイングにもなっているため、トップ・オブ・スイングの段階で右足に残っているべき体重が左足に移動してしまい、ダウンスイングでは右へと移動。不安定なスイングになっていました。

この場合、スイングの最下点がインパクトより手前に来てしまうため、ヘッドが早く上がり、ボールの上部を叩いてしまうミスにつながっていました。

まずは重心をセンターに置き、トップ・オブ・スイングの位置を軸がぶれないところにしっかりと決め、ダウンスイングからフォローにかけてスムーズに体重移動を行うことが肝心です。それを体感できるドリルを下に紹介しています。ぜひ試してみてください。

オーバースイングにならないためのドリル

ウェイトを中央に保ち、胸の回転を意識



【白戸プロの解説】

正しいトップ・オブ・スイングの位置と、スイング軸を保ちながらの適切な体重移動を体感できるドリルです。小山さんの場合は②の段階で左荷重になっていたため、重

心を中央に戻し胸の回転を意識できるよう、このドリルを行いました。アドレス時にクラブを背中に当て、両肩のラインを地面と平行にキープして、フォロー(③の写真)までの動きを繰り返します。

SXの精神と直結したゴルフ場

企業が将来を見据え、競争力を維持しながら安定的に成長していくためには、事業のあり方や経営戦略を持続可能性の視点から見直し、変革していくことが求められます。こうした取り組みはSX（サステナ

ビリティ・トランスフォーメーション）と呼ばれています。ゴルフ場運営会社も、SXへの取り組みが進んでいます。今回は国内最多の172コースを保有・運営するアコーディア・ゴルフの取り組みに注目しました。

全ゴルフ場でジェンダーレスティー

「ジェンダー平等の実現」はSDGsの重要なテーマの一つであり、日本のゴルフ場の多くがこのテーマに取り組んできました。アコーディア・ゴルフも早くから「老若男女に関わらず、経験年数、ブランドの有無、プレー時間の短縮など、様々なニーズに応じて、幅広くゴルフを楽しんでいただく」（報道資料より）ことを目標に、カジュアルゴルフを浸透させる活動を推進してきました。

その代表的な取り組みが「ジェンダーレスティー」です。広く定着していたバック、レギュラー、フロント、レディースといった名称を見直し、ブルー、ホワイト、グリーン、レッドとティーマークで呼称を統一しました（別表）。

これによりプレーヤー自身の飛距離や技量に合わせて、自分のプレーしたいティーを選びやすくなりました。その結果、女性や初心者だけでなく、体力の低下などによりプレー機会が減っていた方でも、

自分に合ったティーを選び、気軽にゴルフを楽しむことができるとなりました。

飛距離の目安 (ティーから)

▶ ブルー	280ヤード前後
▶ ホワイト	240ヤード前後
▶ グリーン	200ヤード前後
▶ レッド	160ヤード前後

ジェンダーレスティーの一覧。スロープレーを減らすことも期待されている

女性向け応援サービスの会員が14万人突破

そうした中注目を集めているのが、2022年に同社が全国展開を開始した女性ゴルフアー応援サービスの「Friends」です。アコーディア・ゴルフのゴルフ場、練習場で会員証画面を提示すれば様々な特典が受けられます（登録無料）。登録者数は26年6月の時点で14万1047人にまで達しています。また、「女性に優しいゴルフ場の運営」も同社は重要なテーマの一つとして掲げています。直近3年間で約50カ所実施したクラブハウスのリニューアル

では、そのほとんどで女性のロッカールームや脱衣所、浴室などの女性スペースを拡張し、什器備品を一新。パウダールームにはパーテーションや高性能ドライヤー（ReFa・ダイソン）を導入し、女性ゴルファーが快適に過ごせる空間を提供しています。

さらに、浴室にはReFaのシャワーヘッドや様々な種類のシャンプー・トリートメントが



お好みに合わせて使える
シャンプーバー（東京相武CC）



2025年12月にリニューアルした
加茂CC（京都府）のパウダールーム

揃うシャンプーバーが設置されており、利用者が自身の好みに応じて選択できる環境が整っています。

健康寿命を延ばす役割にも期待

ゴルフは他のスポーツに比べて比較的体への負荷が少なく、年齢を重ねても継続しやすいことから「生涯スポーツ」とも呼ばれています。また、距離やスコアを計算しながらプレーをする「デュアルタスク」を行うことから、認知症予防にも効果があると考えられています。

「すべての人に健康と福祉を」というテーマにも貢献しているアコーディア・ゴルフは25年に国内2位の150カ所のゴルフ場を保有・運営するPGM（パシフィックゴルフフマネージメント）と兄弟会社になり、2社を合わせると322カ所という世界最大級のゴルフ場会社となりました。

今後、こうした企業の取り組みは、高齢化が進む日本において健康寿命の延伸にも寄与することが期待されます。

Keyword ▶ AIエージェント

350社以上が利用する安全保障貿易管理ソリューションで AIエージェントが審査業務を支援

株式会社日立ソリューションズは、製造やサービス、商社など350社以上に導入されている「安全保障貿易管理ソリューション」において、急速に複雑化する顧客審査や該非判定の業務を支援するAIエージェントを販売開始しました。

地政学的リスクの高まりにより、輸出管理規制は世界各国で複雑化しています。対象分野は半導体、AIなどへ拡大し、規制範囲も品目だけでなく用途、需要者、サプライチェーン全体へと広がっています。輸出者である企業では技術や営業、法務、輸出管理など多様な部門が情報を収集・整理し、判断する必要があるため、業務負荷が

増大しています。

本AIエージェントは、顧客審査や該非判定に必要な情報を、公開情報や企業の独自情報から収集・照合し、判断根拠を明示したレポートを自動作成します。担当者は情報収集・整理にかかる時間を短縮でき、取引先の懸念性変化や輸出実績などの事実に基づき、よりの確な判断につなげることができます。

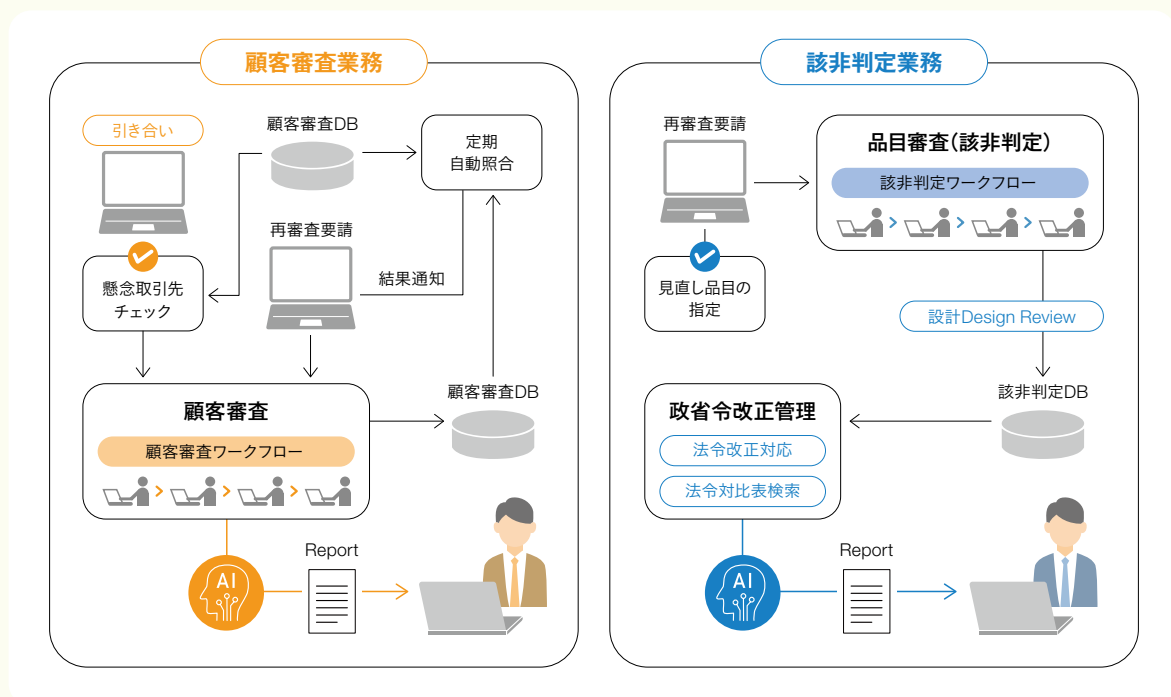
当社は今後も、「DX by AX toward SX」をコンセプトに、AIの活用を通じたDXをベースに変革を推進し、価値創出と持続可能な社会の実現に貢献していきます。

Data

■「安全保障貿易管理ソリューション」



「安全保障貿易管理ソリューション」のAIエージェントの活用イメージ



ニュース&トピックス

日立ソリューションズの
今を伝える
情報コラム

Keyword ▶ 生成AI

清水建設がiPaaS「Workato」を導入し 生成AI活用も可能なデータ利活用基盤を構築

株式会社日立ソリューションズは、大手総合建設の清水建設株式会社に、ワンプラットフォームであらゆるデータ連携や自動化を行えるiPaaS「Workato（ワークアト）」を導入しました。

清水建設は「中期DX戦略」のもと、戦略の中核としてデータ利活用基盤の構築に取り組んでいますが、オンプレミスやクラウドなど、様々なシステムに散在するデータを連携させることに課題を感じていました。

そこで、1000種類以上のコネクタを備え、SaaSやオンプレミス、生成AIなどを連携するWorkatoを導入し、データ連携処理の実装を進めまし

た。日立ソリューションズの支援のもと、多様な自動化レシピを内製で運用し、生成AIを活用したユースケースも拡大しています。例えば、システムメンテナンス通知メールをLLM*で分析し、緊急度に応じて運用担当者にチャットツールで自動通知する仕組みなどを実現しました。同社は、データ連携およびAI活用の社内標準環境としてWorkatoに期待を寄せており、全社規模でのデータ利活用やAIを活用した業務自動化の加速に取り組んでいます。

当社は今後も、清水建設とともにAIの活用を通じたDXを推進し、SX経営の実現に貢献します。

Data

■「Workato」



* LLM：大規模言語モデル。「Large Language Model」の略

Keyword ▶ セキュリティ

サイバー攻撃の激化と規制強化に対応し SBOMで脆弱性管理を高度化する新システムを提供

株式会社日立ソリューションズは、ソフトウェアサプライチェーンのセキュリティリスクを継続的に管理する「SBOM*¹管理システム」を提供開始しました。

AI解析技術の発展により潜在的な脆弱性が顕在化する中、企業にはサイバーレジリエンス法（CRA）対応に加え、ソフトウェア構成把握と継続的な脆弱性管理が求められる一方、実務は依然として手作業に依存し、運用負荷が課題です。本システムは、サプライヤーごとの納品形式や生成ツールの違いで構造や記述に差異が生じるSBOMを一元管理し、識別子の自動付与と脆弱性の継続監視、影響検

知により迅速な対応を実現します。これにより、SBOMを単なる部品管理にとどめず、脆弱性の検出・評価・対応を統合した実運用へ進化させ、ソフトウェアサプライチェーンの可視化とリスク把握により、PSIRT*²運用の高度化を支援します。当社は、本システムの有効性について、株式会社島津製作所、ヤマハ株式会社と実証を行い、脆弱性管理業務の工数削減と運用効率化において高い評価を得ました。日立グループと連携し、日系企業の海外拠点におけるセキュリティ・ガバナンス強化により、グローバルで一貫した運用を支援します。

Data

■「SBOM管理システム」



*¹ Software Bill of Materials（ソフトウェア部品表）の略称

*² Product Security Incident Response Teamの略称。脆弱性インシデント対応をおこなう専門組織、または活動

Keyword ▶ Web3

Web3技術を活用した地方創生を実現する 「ねぶた祭DAO」の実証実験第2弾を開始

近年、地域の祭りは人口減少や少子高齢化の影響を受け、担い手不足や参加者の減少といった課題を抱え、従来の運営形態の維持が難しくなっています。

このような状況の中、ぶらっとホーム株式会社と株式会社日立ソリューションズ東日本は、青森県の伝統行事「青森ねぶた祭」を題材に、貢献度に応じたインセンティブ設計によって、お祭り・イベントにおける交流人口の増加および地域活性化ビジネスの実現に向けた「ねぶた祭DAO（参加者の行動や貢献をデジタルに記録・活用する仕組み）」の新たな実証実験を開始しました。

本実証実験は、ブロックチェーンを基盤とするWeb3技術を祭り参加者のコミュニティに導入し、祭り参加者がデジタル上で協働・交流できる場を構築することで、伝統文化と最新技術が融合した新しい地域活性化モデルの創出をめざしています。

日立ソリューションズ東日本は、本実証実験を通じてDAOやインセンティブ設計といった先進的な取り組みを対外的に発信していくとともに、企業の地域貢献を支えるデジタル技術を用いた持続可能な地方創生モデルの創出をめざしてまいります。（株式会社日立ソリューションズ東日本）

Data

■「ニュースリリース」



Keyword ▶ AI

図面データの活用促進で、業務効率化と製品品質向上に貢献する製造業向け AI類似図面検索システム「Hi-PerBT 図面検索AI」の最新版を提供開始

製造業においては、多様化する顧客ニーズに伴う製品の高度化や複雑化に加え、人材不足や熟練者の退職に伴う技術継承が課題となっており、過去の設計資産を効率的に「検索・比較・再利用」することの重要性が高まっています。

こうした課題に対し、株式会社日立ソリューションズ西日本は、図面の特徴をAIに学習させ、形状と文字情報から類似図面を探し出せる「Hi-PerBT 図面検索AI」を提供し、図面データの利活用促進や業務改善を支援してきました。そしてこのたび、本製品に新たなAIエンジンを搭載し、検索機能と

比較機能を強化した最新版を開発しました。最新版では、事前学習不要で形状検索に適したAIエンジンの搭載に加え、AI-OCR技術*によるテキスト認識精度の向上により、類似図面の検索精度を高めました。

日立ソリューションズ西日本は、今後も製造業のDX推進を支援するため、「Hi-PerBT 図面検索AI」を含むPLMソリューションの機能強化を継続していきます。これまで培った知見とソリューション提供の実績をもとに、企業のAIによる設計資産活用を支援し、お客様の競争力強化に貢献していきます。（株式会社日立ソリューションズ西日本）

Data

■「Hi-PerBT 図面検索AI」



* AI-OCR技術：AIを活用して画像やPDFなどに含まれる文字情報を高精度に読み取り、テキストデータ化する技術

ニュース&トピックス

日立ソリューションズと
日立ソリューションズのグループ会社の今を伝える
情報コラム

Keyword ▶ フロンティアAI

フロンティアAI時代のサイバーリスクに備える 経営層向け防御研修を提供開始

2026年、数千件規模の高深刻度のゼロデイ脆弱性を自律的に発見するフロンティアAI*が登場したことにより、AIがサイバー攻撃・防御の双方において、従来の対応スピードや体制に大きな影響を与えつつあることが明らかになっています。

こうした中、株式会社 日立ソリューションズ・クリエイトは、企業のサイバーセキュリティの人材育成、組織体制の強化を支援する「サイバーセキュリティトレーニング」に、経営層向け研修として「サイバー脅威トレンド研修(フロンティアAI編)」を追加し、提供を開始しました。

フロンティアAIの台頭により、企業のサイバーリスク対応は今や経営トップが直接関与すべき最重要課題となっています。こうした課題を受け、本研修では、AIによりサイバー攻撃の速度・規模・手法が変化しつつある現状を理解し、経営層として認識すべきリスクや対応方針の検討に必要な視点を学べます。これにより、日立ソリューションズ・クリエイトは個々の企業のサイバーセキュリティに対するレジリエンスを高め、安全・安心なデジタル社会の実現に貢献します。(株式会社 日立ソリューションズ・クリエイト)

Data

■「サイバーセキュリティ
トレーニング」



* フロンティアAIは、高度な推論能力と汎用性を備えた現在のAI技術の最先端モデルの総称を指します。なお、本研修における各AIモデルに関する内容は、各社および関係機関が一般公開している情報に基づくものです。固有の脅威への個別対応を保証するものではありません

Keyword ▶ エッジAI

エッジ×生成AI(VLM)の新アーキテクチャを実現する屋外インフラ監視向け 「生成AI用イベント検知ソフトウェア」を提供開始

近年、VLM(Vision Language Model)をはじめとする生成AIの進展により、監視カメラ映像などの画像データを活用した状況把握や判断支援の適用領域が拡大しています。

こうした中、株式会社日立ソリューションズ・テクノロジーは「生成AI用イベント検知ソフトウェア」の提供を開始しました。本ソフトウェアは、エッジ側で人物侵入や置き去り・持ち去りなどのイベントを検知し、生成AIが必要とする映像データのみを抽出して連携します。これにより、生成AIへの不要データ入力を抑制し、処理負荷や通信量を低減するとともに、応答性と運用安定性の向上を実現します。

また、本ソフトウェアを第一弾として、アムニモ株式会社のエッジAIゲートウェイ製品へ搭載し、「エッジでイベント検知を行い、生成AIで高度な状況理解を行う」新たな監視アーキテクチャを実現しました。屋外インフラ設備の監視業務において、効率的かつ高度な判断支援を可能にします。

日立ソリューションズ・テクノロジーは今後も、画像AI・生成AI・エッジAIを組み合わせたソリューションの提供を通じて、現場業務の高度化・省力化を支援し、安心・安全で持続可能な社会の実現に貢献していきます。(株式会社日立ソリューションズ・テクノロジー)

Data

■「生成AI用イベント
検知ソフトウェア」



青森ねぶた祭で9年ぶりの海上運行が実現 ねぶた師・北村春一さん作「吉野山 桜下の別れ」が出陣

2026年8月2日～7日、日立グループならびに日立ソリューションズが協賛する青森ねぶた祭が開催されました。日立連合ねぶた委員会のねぶたを手がけてくださったのは、昨年

に引き続き北村春一さん。若さあふれる感性と情熱、斬新な発想で日立連合のねぶたにさらなる新しい風を吹き込んでくださいました。

今年の出陣テーマは「吉野山 桜

下の別れ」。平氏討伐の英雄・源義経は、兄・頼朝との対立により追われる身となります。吉野山へ逃れた義経は、女人禁制の掟のため、愛する静御前との別れを決意。再会を信じて旅立つ義経と、桜吹雪の中でその幸せを願い舞う静。本作は、離れても変わらない二人の絆と「熱き鼓動」、そして覚悟が切り開く「未来の鼓動」を描いています。

祭り当日は、ねぶたが載った山車、踊り子の跳人とともに、沿道の多くの観客が拍手で盛り上げるなど、街は熱気に包まれました。また、今回日立連合ねぶた委員会は「知事賞」をはじめ、複数の賞を受賞いたしました。地域の皆様、関係者の皆様に感謝申し上げます。



オープンなコミュニティ「ハロみん」にてテーマ別WEBページを開設 イベント情報からコラムまで情報をお届け

日立ソリューションズが運営するオープンなコミュニティ「ハロみん」では、サステナブルな地球社会の実現に向け、業界を超えたステークホルダーとともにワクワクする未来を創出する活動を展開しています。

「ハロみん」の思いや活動内容をまとめているWEBページにて、皆様の関心や課題に応じた情報収集を可能にする「テーマ別ページ」を新たに開設しました。本ページでは、「まちづくりDX」をはじめ、「セキュリティ」「スマートモビリティ」など旬のテーマを扱っています。

最新のイベント情報や、第一線で活躍する有識者の講演を含むイベントレポート、活動に伴走するメンバーのご紹介、関連コラムを一堂に集約



し、ビジネスの新たなヒントや協創のきっかけとなる情報をお届けします。QRコードより各テーマ別ページにアクセスいただけますので、ぜひご覧ください。



特設ページはこちら

日立ソリューションズ SX情報局のSNSにておすすめ記事を投稿中！ ぜひフォローをお願いします。



日立ソリューションズSX情報局の
X(旧Twitter)はこちら



日立ソリューションズSX情報局の
Instagramはこちら



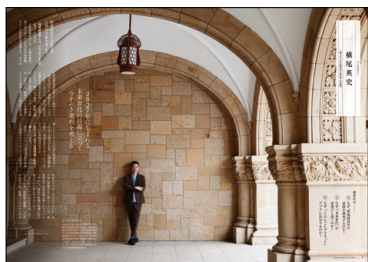
Topic Content

注目記事

過去号から、今注目すべきピックスに合った
おすすめの記事をご紹介します。

【プロワイズ Vol.80】

「2027年に生まれる未来世代の目線に立って今
すべき選択を考える」一橋大学大学院 経済学
研究科 准教授 横尾英史氏



過去号で掲載した記事は
WEBでご覧いただけます。

Readers' Voice

読者の声

プロワイズに対する読者の声を紹介します。

AIに関する幅広い知識や最新動向が紹介されて
いる点が良いと思いました。特に「95%の精
度でも役立つ領域から考える」という視点や、
社内業務で運用して効果を確認し必要な改善
を施した「カスタマーゼロ」の考え方は素晴らし
いと感じました。また今後は失敗事例も記載い
ただけると、より実践に役立つと思います。

(不動産業 I様)

いつも感じますが、フォントや構成といったデザ
イン含めて、紙媒体の良さを改めて感じさせて
くれる雑誌だと思います。

(情報通信業 K様)

Back Issues

バックナンバー



Vol.80
Summer 2026

特集 輝く

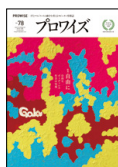
新井紀子氏、大池 徹／横尾英史氏／
21世紀のものづくり④
アップサイクルアクセサリー 他



Vol.79
Spring 2026

特集 持続する

松浦弥太郎氏／
池田未央氏／
21世紀のものづくり⑩歌舞伎衣裳 他



Vol.78
Winter 2026

特集 自由に

林家つる子氏／
半澤節氏／小林涼子氏／
21世紀のものづくり⑨創作水引 他



Vol.77
Autumn 2025

特集 連鎖させる

平野未来氏、半田浩晃／
川内イオ氏／大武美保子氏／
21世紀のものづくり③ニット造形 他

次号「プロワイズ」は、2027年1月に発行予定です。

* 記事の内容はご登場いただいた方々のご意見であり、
当社の考えを表現しているものではありません。
* 掲載内容は取材当時のものです。

From the Editor

編集部より

暑さが少しやわらぎ、空が高く感じられる季
節になりました。秋は、足元にある実りを確か
めながら、その先に広がる景色にも思いを巡ら
せたくなる季節です。

今号のテーマは「見通す」。未来を正確に予
測することはできませんが、今の選択や行動の
積み重ねが未来を形づくっていくのではないで
しょうか。

今号のインタビューでは、それぞれの視点で
未来を見据え、挑戦を続けるお二人にお話を
伺いました。

医師の沖山翔氏は、医療格差という課題に
向き合い、AIの力で誰もが質の高い医療にア
クセスできる未来を描いています。また、ドラ
マ・映画監督の塚原あゆ子氏は、日常の中
にある小さな「種」を丁寧に見つめ、そこから生
まれる物語を紡いでいます。

お二人のお話から、未来を見通すとは、遠い
先を予測することではなく、それぞれの立場か
ら今を見つめ、その先にある未来を考えるこ
とのだと感じました。その積み重ねが、新しい
価値や社会の変化につながっていく。今号が、
皆様にとって自身や組織の未来を考えるきつ
かけとなれば幸いです。

HITACHI

ハロー みんなのSX。



世界中の人々が心地よくつながりあう社会。
自然と人間、さまざまな生物がしあわせに共存する世界。

ワクワクするような未来は、ひとりでは描けないから。
SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）のもとで、
みんなの力をひとつにしよう。

サステナブルな未来は、協創でつくる。

確かなテクノロジーと、未来への希望を持ち寄って、
私たちはひとつのチームになる。

企業や、国境や、文化の違いを超えて、
みんなの力で、あたらしい景色を創造しよう。
日立ソリューションズと、ともに未来へ。

日立ソリューションズ



表紙には抗菌加工を施しています。

オフィシャルサイトはこちらから
www.hitachi-solutions.co.jp

